

## 【対策】

- ① 田を乾かすため、排水を向上させる
- ② 稲わら分解促進のため、石灰窒素等を散布する
- ③ 機械作業を丁寧にいき、土を練らないように秋耕する

## 稲刈りから秋起こしのポイント

### 稲刈り

### 排水

稲刈り後は水尻をしっかりあけて乾きやすくしましょう。  
 轍(わだち)など滞水しているところは溝を切って排水溝に繋げましょう。

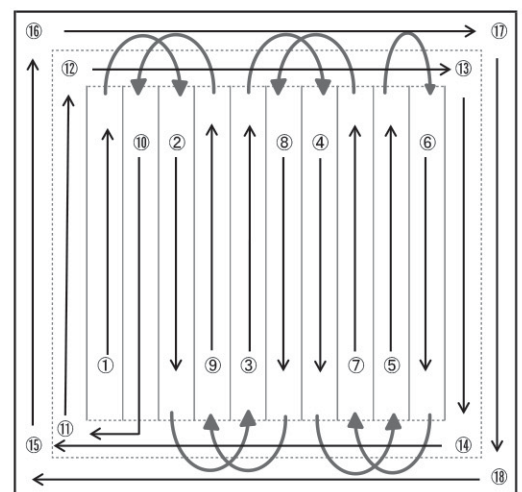
### 分解促進

稲わらの分解促進のための資材を散布しましょう(下記の表の土づくり資材と有機物腐熟促進材を併用してください)。石灰窒素を散布すると分解が促進されます。

### 秋起こし

土を練らないように丁寧な耕耘作業を行いましょう。特に田の枕地は、機械が頻繁にターンするため、深くなったり土を練りがちです。一畝おきに耕耘する、枕を2周とるなど、枕地に負担をかけない工夫をしてください。

### 耕耘の順番の例



## ロータリー耕のチェックポイント

爪の幅が2cm以上あることを確認しましょう

- 深さ 5~10cm
- PTO 1速で(荒く起こすためにロータリーの回転はゆっくりと)
- エンジン回転はなるべく落として(土を後方に飛ばさないように)
- 車速 1.5~2.0km/h(なるべく早く。使用されるトラクターの車速表を参照してください)
- リアカバーは上げて使う(土をカバーに当てて細かくしない)

秋起こしの後の排水対策には畝立機や片培土機、また、内爪にした内盛耕(尾輪必須)等で耕耘後に排水を良好にし、田が乾くようにしましょう

## 〈土づくり資材の施用例〉

秋起こしの前には、ミネラル分やケイ酸分を含む土づくり肥料を散布しましょう。

### 土づくり資材と有機物腐熟促進材の使用例 \*10a施肥量

土づくり資材	施用量	有機物腐熟促進材	施用量
BMとれ太郎	80~100kg	石灰窒素	20kg
オイスターミネラル	100kg		
ニューケイカル	100~200kg	ワラソイル	30kg

詳しくは、JA又は普及センターにお問い合わせください。